

西教寺報

第 9 3 号
 仏歴 2547 (2003・平成 15) 年
 7 月 18 日 発行
 呉市中央 7-7-13
 西教寺蔵本通支坊
 TEL 0823(21)2798
 FAX 0823(21)2795
 郵便振替番号
 01340-3-29117

紙 面

「大瀛和上二百回会に因んで」…岩崎正衛(住職)	1
長ノ木本坊西側に駐車場	4
降誕会(お瀛・初参式・ビンゴゲーム・入学奉告式)	5、6
活動する婦人会	6
長ノ木本坊西門前に駐車場	7
誓子の日記: 岩崎誓子	7
御礼・お詫ごと訂正	7
西教寺法座と例会のご案内	8



本格的に工事が始まった本堂修復の様子。写真は、瓦を降ろした屋根の最上部(棟)に立つ南法務員。立つてみるとかなりの急傾斜です。

大瀛和上二百回会に因んで

岩崎 正衛(住職)

今年、かの「三業惑乱」の時、文字通り生命をかけて、浄土真宗のご法義のために尽くされた真実院大瀛和上の二百回会です。三業惑乱とは、時の本願寺第七代能化智洞師が、『わたしがアミダさまを拝むときには、心で『アミダさまお助け下さい』と思

い、その思いから口にナモアミダブツと称え、体に合掌礼拝する、すなわち私の身口意の三業にかけてアミダさまにお願いするのが親鸞聖人伝統の正しい「安心である」といわゆる「欲生安心」を主張されたのです。本願寺の能化とは今で言えば龍谷大学の学長と勸学寮の寮頭とを兼ね、ご門主に代つて、ご安心の正否を糾す権限が委ねられていたのですから、絶大な権威がありました。

は十数年に亘り、ついに幕府の介入するところとなり、一八〇四(文化元)年江戸の寺社奉行所で、智洞師と大瀛師との対決後、五月四日(新暦六月十一日)宿所の築地本願寺中成勝寺で、大瀛師は宿痾の労咳のため往生の素懷を遂げられました。行年四十六歳という若さでありました。ところで先日広島別院で布教使の研修会があり、龍谷大学からN教授が出講されました。筆者(住職)も参加して勉強しましたが、その席上こう言うことがありまし



初参式にお参りしてくれた藤井裕也くん(右)と藤井由美子さん(中央)、樋口静枝さん(左)。関連記事は五頁。

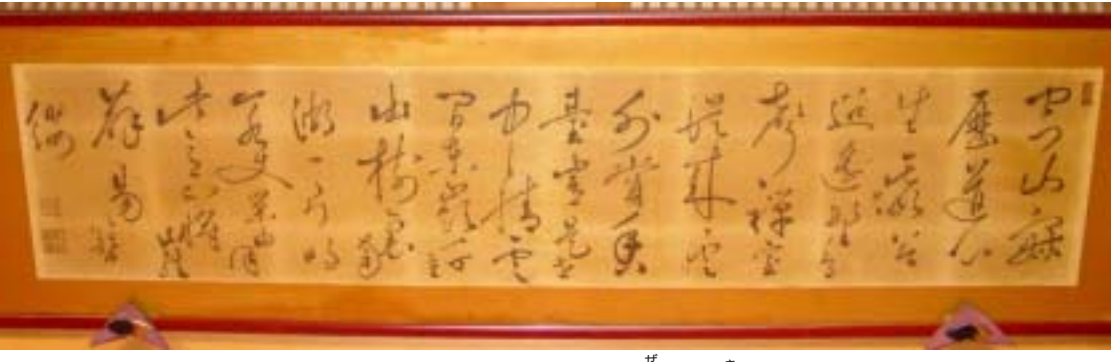
た。先生は「おしやるのです。』お浄土からの世に還るの」
 「還相」を「還來穢国の相状」と釋名(解釈)するが「還相はわたしに付けて言えるが、」
 「回向」は「アマミタ仏に付けて言っているのであってわたしには言えない。』よ、そこで私(住職)が質問しました。「お浄土に生れてアマミタさまにさせていただいた私がいかなる相をとって」
 「還相回向」に出かけるのだから、「還相」はもちろんなら、「回向」も私に付けて言えるのではないですか?』よ、すると先生は「なんと、お浄土へ生れて大瀛樂のさとりは開くが、アマミタさまにはならない」とおっしゃるのです。
 私は本心にびっくりしました。一体、親鸞上人の「文を押さえて」の言ひ答が出てくるので「おしやる」も開かないが「アマミタ仏

もならない」と言ひのなりまだ筋が通っています。が、「わたしは開いてもアマミタさまにはならない(ならないの)かなれないのか?」とはまったくわけのわからない話です。親鸞さまの書かれた『一念多念文意』には願力の白道を二分せやうとつづあゆみゆけば、無碍光仏のひかりの御ころにをさめとりたまふがゆゑに、かならず安樂浄土へいたれば、弥陀如来とおなじく、かの正覺の華に化生して大般涅槃のさとりをひらかしむるをむねとせしむべしとなり。』
 とあります。すなわち、「この世でアマミタ仏のご本願を信じ、お念仏を意ふものはかならずお浄土に生れて、光明無量壽命無量の弥陀同体のさとり(アマミタさまに合せた)をいただいた(言ひ)を聞かされた(言ひ)のであり、すなわち彌陀如来のさとり」を開かされたことになり、
 『大瀛和上百回念の年、その出身地の公鳥、中央の学者がいろいろ異説を聞くとは、不思議な因縁を感じました。』
 『蓮如上人御一代記聞書』に「言われてあります。』
 『聖教は句面のごとくこところ得べし、そのうへにて師伝・口業はあるべきなり。私にして会釈すること、しかるべからざるなり。』
 『アマミタ如来の』
 『往相回向』のおはたらきによつて、お浄土に生れ、大瀛樂のさとりを開かせていただくこの道筋をお示し下さったのが、『教行証文類』の中の「行文類」「信文類」「證文類」の内容であります。そして更に「證文類」に示された「大瀛樂」を説明して、光明無量、壽命無量の眞實眞土のさとりに、すなわち「弥陀同体のさとり」を開かせていただくことを「眞實土文類」にお示し下さったのであります。

ち「弥陀同体のさとり」を開かせていただくことを「眞實土文類」にお示し下さったのであります。

原爆の川ゆるやかに 花見船

(堀岡春三)



西教寺にある大瀛師の書

西教寺に大瀛さんの書があります(本坊表庫裡に掛けてあります)。「唐詩選」にある張説の詩だそうですが、皆さん読めますか?

空山寂寂して道心生
 虚谷迢迢たり野鳥の
 声。
 禅宗従来書外の賞。
 香墨墨是れ世中の情なりや。

雪簡東嶺千軍出で樹裏南湖一片明かなり。
 若し果由と此の意を同じせしめば、羅睺を將つて響響に「勿えし」。

残念ながら読めても意味が分かりませぬね(涙)。長ノ木本坊にお参り下されば分かるようにしておきますので、どうぞお参り下さいね。

ながのきほんぼうほんどうしゅうふくはじ

長ノ木本坊本堂修復始まる



本堂をすっぽり覆う素屋根も完成

いよいよ本格的に修復が始まりました。本堂はすっぽりと素屋根で覆われ、七月一日より瓦降ろしが始まりました。

今後は、本堂を半解体して細部にわたり調査を行います。工事費は約一億二千万円の予定ですが、この時の調査結果に従って若干の見積もり調整が行われます。

また、寺報九〇・九一号でもお知らせしましたが、修復工事

総額約1億2千万円の工事

工事費 1億660万円
設計管理費 1050万円

追加 約500万円
(修復工事報告書作成費)

気になる募財の方は、皆さんのお陰で現時点で一億四千万円を上回る喜捨が集まっ

報告書を作成することになり、将来的に文化財にもすることができるようしておくためには必ず必要な書類なので、この費用が、ご案内の一億二千万円に加え約五百万円が必要となります。

報告書を作成することになり、将来的に文化財にもすることができるよう

ています。

この報告書に必要なお寺の歴史に関する資料がないか皆さんにもお尋ねしましたが、先日お寺の経蔵を整理していただきましたら、これに係る古文書が出てきました。

今までは、一七二二(正徳二)年に西教寺本堂が焼失したという記録があり、現在の本堂はその後再建されたものと考えられていますが、明確な証拠になるものはありませんでした。

今回出てきた古文書による



「大きい鬼瓦ですなえ。」瓦降ろしを視察する水口満夫(修復委員長・写真右)さんと向田敏明(修復委員・写真左)さん。

と、二九歳で継職した第六世順正(一七〇六〜一七六二)の時に、五軒四面では狭小なので七軒四面の本堂に再建したとあります。焼失記録と今回出てきた記録をそのまま信用すれば、一七二二年に焼失し、新しく五軒四面の本堂を建てたが、狭いので七軒四面の本堂に再建したということとなります。時期は、二十九歳の順正が継職した一七



今回出てきた古文書

三四(享保十九)年から一七六二(宝暦十)年の間と考えられます。この本堂が、今修復している本堂であれば、築二四〇〜二七〇年の本堂ということになるでしょう

注 「延徳二年第三世の時の祝融(=火事)に罹り舊記等焼失す」(呉市史第1輯・一九二四年)

(編集者)



第三十七回 初参式



第三十七回
初参式参加者

甚田智也 向田朱里
原田夏奈 榎坪さくら
空井慕晃 萬年容
神田真依 藤井裕也
東佳太 前場涼
永谷咲希 前場敬太
向井理緒 濱西貴弘
(順不同)

降誕会



三津田支坊のお斎

今年も親鸞さまのお誕生日である降誕会法座が、長ノ木本坊 蔵本通・三津田両支坊でつとまりました。また、お誕生日に因んで、初参式・入学奉告式・ビンゴゲーム大会など恒例の行事も行われ、沢山の方がご縁を結んでくださいました。

三津田支坊は、沢山の参詣者でにぎわいました。最終日の朝席参詣者には、お斎(＝仏教の食事・無料)がお接待されました(材料は佐々木伝さんの寄付)。

また、長ノ木本坊では、狭い表庫裡を上手にやりくりしながら、今年もお抹茶のお接待がありました。例年、赤ちゃんの初参式と一年生の入学奉告式は長ノ木本坊で行いますが、今

年は修復工事に入ったため、蔵本通支坊で行われました。どうい理由か今年は沢山の方が参加してくださり、とても賑やかでした。

また、蔵本通支坊では、法座参詣者と日曜学校生徒合同で行う、恒例のビンゴゲーム大会で盛り上がりました。最近では最高の百二十名の老若男女が阿



みごと西教寺賞の除湿乾燥機を射止めた圓田千尋さん。日校生徒がゲットしたのは初めて。

奉賛ビンゴゲーム大会

第十一回入学報告式



第十一回
入学報告式参加者

基田さくら 亀田貴之
福光史花 向田有沙
竹岡佑里 脇本麻依
浜本智樹 高下田早希
向井将喜 前場涼
吉中崇裕 (順不同)

弥陀さまの前に集い楽しいひと時を過ごしました。

また、お帰りの際に、安芸教区少年連盟の推進する「キャンディー一個分を」運動をお願いしましたところ、一万三千三百十三円のご喜捨を頂戴しました。ダーナイインターナショナルを通じて、インド・パキスタン・スリランカ等の学校・福祉厚生施設・お寺などに送金されます。

活動する婦人会

婦人会の活動が活発に行われています。去る七月四日は、毎月住職が奉仕布教にお参りしている三滝苑（広島市西区）を訪問しました。住職のお話の後、婦人会と有志により歌や踊り、フラダンスや手品、さらには安来節や南京玉すだれ、どじょうすくいなど、十六種もの出し物でお騒がせしてきました。また、七月五日、十一日には蔵本通支坊・長ノ木本坊で（次頁）



三滝苑でフラダンスを踊る婦人会のメンバー。



第5回研修会・総会（於長ノ木本坊）



第5回研修会・総会（於蔵本通支坊）

それぞれ研修会が開かれ
いずれも前回を上回る約七
十名の参加がありました。

また、「脱・敷居の高い
お寺」を目指して、長ノ木
本坊婦人会は法座の昼席に
「ティータイム」をはじめ
ました。お茶を飲みながら
ご講師を囲み、楽しく話を
することを通して仏教を身
近なものにしようという企
画です。まだ試行錯誤の段
階ですが、お寺参りの楽し
みが一つ増えた感じではす
べし。皆さんいかがですか？



「かえって緊張するワ、
という感じの皆さん。」

本坊西門前に駐車場
皆さんどうぞご利用下さい



誓子の日記

「揺れる親心」の巻

うっとうしい梅雨がもつ
し続くようです。今のこの
暑い日もそう多くないので
責空が恋しい感じで久しぶり
に夏を心待ちにしています。
七月に入り、長崎で悲しい
事件がありました。始めは
被害者の立場で（我が子が同
様の事件に巻き込まれない様
に）ニュースに耳を傾けてい
ましたが、容疑者が少年と分

かつてからは、逆の立場から
も見てしまい、私の気持ちは
とても複雑なものとなりまし
た。

これから何年後か、順々
に思春期を迎えてゆく息子達
をちゃんと育てることができ
るだろうか、とても不安で
す。今でさえ、反抗期の四歳
児に振り回されているのに、
中学生位になって口もきいて
くれなくなったら……（落ち
込んでゆく私）。

先日、偶然にも元児童相談
所所長の教授さんのお話を
聴く機会がありました。
大人と同様子供も、様々
な不安や怒りをもちながら
バランスを保って生きてお
り、そのバランスが崩れる
時、判ってほしい相手に対
して、言語や行動、身体的
精神的な症状としてシグナ
ルを送るのだそうです。周
りの大人がそのシグナルに
気づけなくてはなりません

ん。なかなか難しいことで
す。

—そうよ、この子達のこと
を一番分かってやれるの
は私たち親しいかない
じゃない（幸か不幸か土
壇場で開き直れる性格の
私）—

せめて我が子だけでも一番
判ってやれる存在でいたいも
のです。
少し元気を出して、遊んで
いる息子たちのほほを振り返
ると、脳天気三人でじゃれ



六月二十二日夏至の日の夜電
気を消して過ごす「百万人の
キャンドルナイト」。わが家
も三〇分だけ参加しました。

<http://www.candle-night.org/index.html>

合っている。

—まあ今のところ大丈夫
かあ（脳気な私）—

夏本番とともに、恐ろしい
夏休みが始まります。ますま
すパワーアップした三人が毎
日家の中。
長い長い四〇日間はもうす
ぐです。（おしまい）

お 礼

- 三津田支坊 降誕会お齋材料 佐々木伝八ガキ
- 久保アヤコ
- 高須賀スミエ
- 小堀仏壇店（呉市本通）ぞうきん
- 河野和俊
- 降誕会ビンゴゲーム商品
- 高島眞子（ママん家）
- 吉中武雄・哲枝
- 高須賀スミエ
- 水口満夫・貞子
- 福島知真・真介
- 木村哲夫・綾美
- 久保アヤコ
- パナピットやまもと
- 樋口邦彦・静枝
- 井上力ズエ
- 平本和世
- 小田原一・倅江
- 藤川悦子
- 古塚マツエ・里見
- 橋詰昭三・サトエ
- 内田慶子
- 前野輝美 鈴江
- 長沖和子
- 齊藤芳樹・ユミエ

- 金延健二
- 伊佐治幸子
- 福光年宏
- 永田益恵
- 石田勉・三重子（石田薬局）
- 堀岡春三・テル工
- 小堀忠雄・佐代子
- （小堀仏壇店）
- 匿名希望の某女性
- 岩崎正衛・ヤラ
- 岩崎智寧・誓子
- 多田大樹
- 湯村高志・仙子
- 南徹
- （敬称略）

お詫びと訂正

- 九二号八頁
- 三津田支坊降誕会法座
- （誤）五月十三日（火）朝席
- （正）五月十三日（火）夜席
- 九二号三頁 お礼 ダーナ
- （誤）長ノ木本坊
- （正）長ノ木本坊
- 二八、一〇〇円



新聞に載せる記事、ご意見
ご感想をお待ちしています。
〒737-0051
呉市中央7-7-13
西教寺蔵本通支坊
西教寺報編集局 宛
FAX(0823) 21-2795
Email chinei63@enjoy.ne.jp